

# みんなの全断連短信〔第22号〕

平成23年4月1日創刊  
平成25年1月1日発行

(発行責任者) 中田克宣 (発行者) 公益社団法人全日本断酒連盟 事務局  
〒101-0032 東京都千代田区岩本町3-2-2 ☎03-3863-1600



謹賀新年 本年も宜しくお願い申し上げます



## <全断連主催行事報告>

### ① 近畿ブロック断酒学校

11月16～18日貝塚市大阪府立少年自然の家で開催。全断連からは小栗副理事長他理事5名が参加。

2日目に全体研修とは別に、「リーダーを考える研修会」として、54名が4グループの分科会形式でアクション・プランに準じたテーマにより4時間にわたる研修を実施。

別途、「酒害者を子に持つ親の会」「酒害者を妻に持つ夫の会」が開かれた。家族会のあり方について小谷クリニック医療福祉相談室 三好弘之氏が講演。

医療20、断酒会263、総計283名が参加。

## <全断連主催行事報告>

### ① 中部ブロック秋季研修会

11月3、4日乗鞍青少年交流の家で岐阜県断酒連合会主管により開催。新雪の北アルプスに迎えられ自然を満喫できた素晴らしい研修会になった。

第1日の研修プログラム(3)で本人を20名単位に分けた分科会と家族会を実施。断酒会のあり方についての討議を行い、第2日の全体研修で結果を発表した。参加人員は本人・家族合計89名

### ② 中国ブロック断酒セミナー (第21回)

兼 アクション・プラン・フォローアップ

11月10、11日広島県福山市みろくの里で開催。統一テーマに「これからの断酒会を考える」を掲げアクション・プランの項目ごとに4分科会で集中的な討議を行い、並行して家族の分科会で「家族会の役割とあり方について」話し合いが持たれた。

第2日目の全体会議で以下3項目の中国ブロック断酒セミナー活動宣言を採択して終了。

①断酒会/アルコール依存症のことを一般社会にもっと知ってもらおう。②魅力ある断酒会を目指して全会員で例会そのものの変革を目指そう。③断酒会の中で断酒をするということの意義と喜びを見出そう。

正会員126、家族46、合計172名が参加した。

## <全断連助成金申請状況>

### ① 市民公開セミナー開催助成金 (各300,000円)

・大分県市民公開セミナー (300,000円)

## <アルコール健康障害対策基本法推進>

議員連盟とアル法ネットの動き活発に

### ○自民党アルコール問題議員連盟会合開催

11月6日自民党本部で、基本法の推進にあたり、自民党として、アル法ネット、関係省庁の意見をヒアリングし、党内意見調整を図ることを目的に開催。

- ・議員連盟：中谷元自民党議連会長、あべ俊子事(敬称略) 務局長、石井みどり、永岡桂子
- ・アル法ネット：アスク今成代表、全断連立木名誉役員、大槻事務局長

・関係省庁：参院法制局、国税庁、厚労省健康局・社会援護局、文科省

① 全断連からは、アル症を取り上げた基本法の推進を評価すること、法制局作成の法案骨子については内容的に異存なく賛成であることを陳述。

② 健康障害等の用語の定義を明確にすべきとの意見あり、法制局もこれを歓迎するとしたため、専門家に対するヒアリングを行うことになった。

### ○自民党議連 アルコール医療専門家ヒアリング

11月9日、6日の会合の結果を受けて自民党本部で開催。医療機関からの専門家として久里浜医療センター樋口進院長を招聘、ヒアリングを行った。

- ・出席者：中谷元自民党議連会長以下、議員連盟及びアル法ネット、関係省庁出席者は6日に同じ。
- ・今回のヒアリングの中心目的は、基本法の正式名称について「健康障害」なる用語の定義に関する、樋口氏の見解を聞くことであった。

名称は「アルコール関連問題対策」がベストと考えるが、「健康障害」でも特に専門的立場から見て問題はないという方向でコンセンサスが得られた。

### ○超党派アルコール問題議員連盟会合開催

11月14日参議院議員会館において開催。

議院連盟から櫻井充会長、中谷元会長代行他衆参両院議員6名、代理3名。

関係省庁として参院法制局、国税庁、厚労省健康局・社会援護局、文科省。

アル法ネットよりアスク今成代表、全断連立木名誉役員、大槻事務局長が出席。

① 冒頭、アルコール健康障害対策基本法骨子案を提示。

② 櫻井会長挨拶～ アルコール健康障害対策基本法の骨子が明瞭になってきた。本日の会議で了承



後、本案を各党に持ち帰り、党内手続きをお願いする。

- ③ 中谷会長代行～11月一杯で各党内議論を尽くしてもらい、その結果により可及的速やかに国会での審議に上げることを検討する。
- ④ 本基本法に関する主管官庁は厚労省とする。以上を決定して終了した(詳細「かがり火」3月号)。

### <厚労省依存症対策検討会開始>

○平成24年11月29日厚労省による民間有識者を集めた第1回依存症対策検討会議が東京虎の門スクウェアで開催され全断連からは立木名誉役員が出席した。この会議は本年3月末までに5～6回開催され、依存症者に対する治療及びその回復支援のために必要な事項を検討する。その結果は厚労省の平成25年度アルコール・薬物依存症対策の企画立案と平成26年度の予算に反映されることになる。

○対策会議の出席者構成は次の通り

・樋口進(久里浜医療センター院長)・川副泰成(全国自治体病院協議会)・幸田実(DARC)・河本泰信(岡山県精神科医療センター)・佐藤光展(読売新聞)・紫藤昌彦(紫藤クリニック)・田辺等(全国精神保健福祉センター)・月乃光司・成瀬暢也(埼玉精神医療センター)・堀井茂男(日本精神科病院協会)・宮岡仁(北里大学)・山中朋子(全国保健所長会)・服部(AA GS)

(詳細は「かがり火」3月号に掲載)

### <アクション・プラン・フォローアップ>

(北陸ブロック)

11月10日福井市で行われた北陸ブロック協議会の機会に、ブロック執行部10名、全断連から小栗実行委員長、仲村委員が出席して開催。

○「よりよい断酒生活を送るために」の勉強会の推進と昼例会の早期展開について相談した。

リーダー育成についても「司会者の役割」等、身近なテーマから討論に入ることを打ち合わせた。

○3月9、10日北陸ブロック研修会を開催することを決定した。

### <県警、新聞社から表彰>

(社)大分県断酒連合会

大分県連は日頃の活動が評価され昨年11月に2件の表彰を受けた。(かがり火1月号詳報)

○大分合同新聞社福祉賞

障がい者の社会参加推進やボランティア活動など社会福祉分野で活躍する団体に授与されるもので、長年の功績が認められ、11月14日同新聞社本社において表彰を受けた。

○平成24年度飲酒運転根絶功労団体表彰

11月20日大分県庁で開催された飲酒運転根絶県民大会において受賞。平素からの飲酒運転根絶はじめ交通安全対策推進への貢献が高く評価された。

### <ブロック大会後援依頼回答のお願い>

平成25年度ブロック大会開催主管県連に対し厚労省後援依頼のため、開催要綱と収支予算書の提出を依頼しています(平成24年12月14日全断連事第24-101号)。

ブロック大会は公益法人全断連が主催する地域における最大の行事で、厚労省の後援を得ることが大原則です。ご協力をお願いします。

### <市民公開セミナー開催状況>

○島根県雲南市市民公開セミナー

名称「雲南圏域アルコール関連問題地域セミナー」  
・10月19日雲南市三刀屋農村環境改善メインセンターで雲南保健所主催、県立心と体の相談センター・(社)島根県断酒新生会共催により開催。

・テーマは①自殺対策とアルコール問題②依存症の危険性③心と体の健康(うつ病)

・医療法人同仁会海星病院院長 西田朗氏が「アルコール依存症とうつ病」をテーマに講演。

断酒会員よりの「近年、病院に繋げようとしても、「酒を切って連れてこい」と言われる。酒が切れないから困っているわけで、医療の姿勢は矛盾していないか」との問いに対し、「一般的にアルコール治療に対して医療機関の腰が引いている。医療は考え直さないといけない」との回答があった。

行政のPR不足のせい、行政10、医療3、一般27、断酒会10、総計40に留まった。

### <平成24年10月現在会員数訂正>

・(社)静岡県断酒会 555名→556名

・全国合計 8,486名→8,487名

### <加盟断酒会・代議員一覧訂正>

(社)大阪府断酒会

・42ページ下から5行目

内藤弘明(誤)〒472-0084→(正)〒572-0084

### <「躍進する全断連2013」配布>

1月初旬に県連事務局宛て発送します(配布部数:各都道府県連所属会員数×130%)。

B5版 本文60ページ。全国断酒会名簿最新版付全正会員のお手元に中旬頃届く見込みです。

総発行部数は15,000部で全断連会員全員はもとより地域の医療・行政の皆様にもお届けします。

### <全断連主催行事予定-4月まで>

2/15～17日 大雪断酒学校

3/ 2、 3 中部ブロック春季研修会(岐阜)

3/17 関東ブロック研修会(神奈川)

4/14 中国断酒ブロック(島根)大会

4/21 中部ブロック(愛知)大会